

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

宿泊施設におけるボイラーの更新及び燃料転換
(A 重油→都市ガス)

排出削減事業者名：株式会社 琴平グランドホテル

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 琴平グランドホテル
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	こんびら温泉 華の湯 紅梅亭
住所	〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町 556-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

株式会社琴平グランドホテルが運営する、こんびら温泉華の湯紅梅亭における温水ボイラーの高効率化及び燃料転換(A 重油→都市ガス)

2.2 排出削減事業の目的

株式会社琴平グランドホテルが運営する、こんびら温泉 華の湯 紅梅亭にて使用しているA重油仕様温水ボイラーから、高効率の都市ガス仕様温水ボイラーに更新する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

高効率の都市ガス仕様温水ボイラーに更新することにより、エネルギー使用効率の向上を図り、燃料使用量を削減することでCO₂排出量を削減する。又、ボイラーの燃料を従来のA重油から単位発熱量当たりのCO₂排出量がより少ない都市ガスに変更することにより、CO₂排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012年1月20日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日～2018年4月30日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備からボイラーまでとする。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	ボイラ更新事業実施後燃料の使用量	千 N m ³	2013 年度 : 157.6 2014 年度 : 158.9 2015 年度 : 156.6 2016 年度 : 149.5 2017 年度 : 156.0 2018 年度 : 15.3	消費量実績(四国ガス計測値×標準状態換算係数)から算定	変更なし
ϵ_{Pj}	ボイラ更新事業実施後ボイラー効率	%	92.2	カタログ値(高位発熱量時)	変更なし
ϵ_{BL}	ボイラ更新事業実施前ボイラー効率	%	80.8	カタログ値(高位発熱量時)	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/ 千 m ³ N	2013 年度～2018 年度 : 46	四国ガス(株)公表値	「担当者にて 1 回/年、四国ガス(株)の成分表で変更がないか確認を行う。」を担当者にて 1 回/年、四国ガス(株)に問い合わせて変更がないか確認を行う。
$CF_{fuel, BL}$	事業実施前燃料の単位発	t-CO ₂ /GJ	2013 年度～2018 年度 :	デフォルト値	変更なし

	熱量あたりの排出係数		0.0708		
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発 熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013年度～2018年度： 0.0499	四国ガス(株)公表炭素排出係 数（都市ガス）	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	167.1	46	0.0499	361.9
2014 年度	157.6	46	0.0499	364.5
2015 年度	158.9	46	0.0499	359.4
2016 年度	149.5	46	0.0499	342.9
2017 年度	156.0	46	0.0499	358.1
2018 年度	15.3	46	0.0499	35.0
単位	千 N m3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				1,821.8

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	8,275.0	—	0.0708	585.9
2014 年度	8,341.5	—	0.0708	590.6
2015 年度	8,218.2	—	0.0708	581.8
2016 年度	7,846.3	—	0.0708	555.5
2017 年度	8,189.1	—	0.0708	579.8
2018 年度	801.2	—	0.0708	56.7
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				2,950.3

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	2,950.3

事業実施後排出量 (7.1)	EM_{PJ}	1,821.8
リーケージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	1,128

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン －実績 ①－②
1,075.1	942.2	132.9

省エネルギー量（原油換算）＝1,075.1－942.2＝132.9 kl

省エネルギー量（熱量換算）＝41,671.2－36,518.8＝5,152.4 GJ

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)